



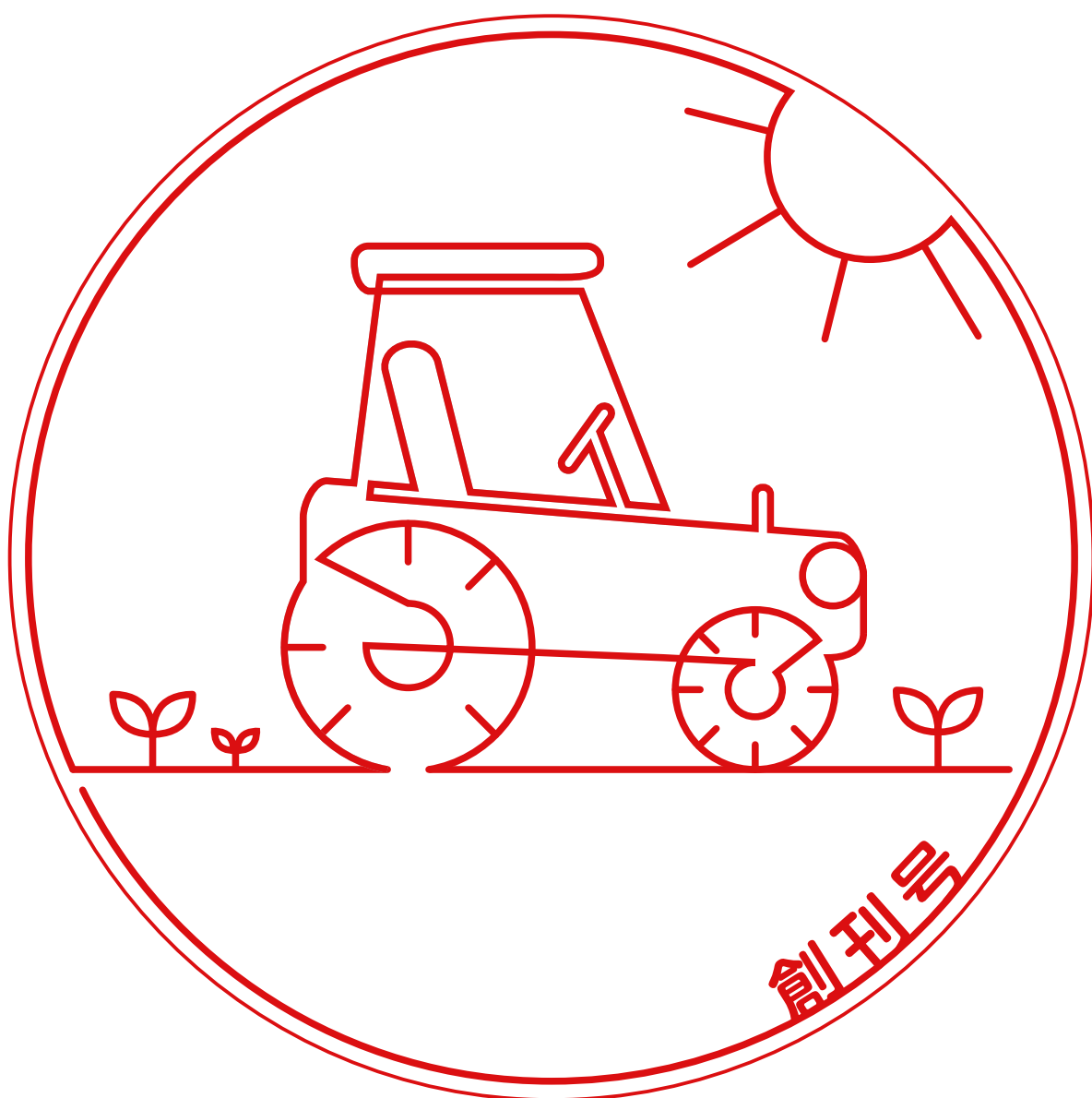
エム・エス・ケー農業機械株式会社

る〜ぱ^oLight

特集

巻頭特別座談会

農業の未来のために、
農業機械ができること、
すべきこと



#01



平素は、お客様並びにお取引様、関係先の皆様には大変お引き立てをいただき、ありがたく厚く御礼を申し上げます。

さて、弊社では皆様との連帯の「きずな」をより強く、広くさせていただきたいとの願いから広報誌「る〜ぷ」をご愛読いただいておりますが、お陰様をもちまして1985年(昭和60年)の創刊号から数えて57号を発刊するまでの歴史を積み重ねて参りました。これもひとえに皆様方の支えがあったからこそとあらためて御礼申し上げる次第です。

この度、このご愛読頂いております「る〜ぷ」に新しい仲間が加わることになりました。「る〜ぷLight」と言う名前のとおり、先輩格の「る〜ぷ」よりもより身近で、気軽な話題や、時代をとらえた旬なエピソードを盛り込んで皆様と更にしっかりと手をつなぎ、皆様との信頼の環を大きく育てていきたいとの願いから「る〜ぷ」発行の合間に、変わらぬ社員の手づくりで皆様へお届けさせていただきます。

皆様との心の通った誌面を目指して社員一同邁進致す所存でございますので一層のご叱正、ご鞭撻を賜ります様お願い申し上げます。

最後になりましたが、日本農業も世界の貿易グローバル化や食料事情を背景に新たな局面を迎えようとしています。皆様のお仕事も多事多端な環境下とは存じますが、お身体にお気をつけいただき、当誌をお楽しみの一つとして益々ご発展されますよう心からお祈り申し上げて「る〜ぷLight」創刊の挨拶とさせていただきます。

エム・エス・ケー農業機械株式会社
代表取締役社長 杉野俊樹



CONTENTS



る〜ぷ^{Light} #01

巻頭特別座談会 * 農業の未来のために、農業機械ができること、すべきこと	03~07
営業所紹介 * 道央支社富良野営業所	08~09
新入社員紹介 * 2017年度新入社員13名が入社	10~11
Products and Solutions 製品情報	
グローバル シリーズ・JAMESWAYスラリータンカー	12~13
農業情勢 * 海外事情から知るニッポン農業	14
ニッポンの食材 * かぼちゃ	15
展示会情報 * 第1回いわてスマート農業祭	14~15

NARO × MSK

農業の未来のために、 農業機械ができること、 すべきこと



農業生産地は現在、高齢化、担い手不足などさまざまな問題を抱えています。そこで農作業の省力化・効率化、熟練者の経験に置き換わる機能など、さまざまな期待を背負うのが農業機械です。今回は農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センターで農業機械のIT化やロボット化など、先端の研究に携わる村上則幸氏をお招きし、生産現場の未来を支えるために農業機械やそれに携わる企業はどうあるべきか、語り合いました。



杉野俊樹氏

エム・エス・ケー農業機械株式会社
代表取締役

大西博文氏

エム・エス・ケー農業機械株式会社
常務取締役

伊藤 弘氏

エム・エス・ケー農業機械株式会社
常務取締役

村上則幸氏

国立研究開発法人
農業・食品産業技術総合研究機構
北海道農業研究センター
大規模畑作研究領域 領域長

【略歴】1991年東京農工大学大学院農学研究科修士課程修了。
同年農林水産省入省、1999年より北海道農業試験場（2001
年より北海道農業研究センターに改組）に異動し、農業分野での情
報通信技術や農業用ロボット研究を中心に、省力作業の技術研究に
取り組む。2017年4月より現職。農学博士。

生産地から人が減りゆく時代の中、農業機械の進化への期待は加速する

杉野：弊社は、大型トラクターをはじめとする輸入農業機械の販売に50年以上携わっています。その間販売だけでなく、ご購入いただいた機器の部品取り寄せやメンテナンスなど、アフターサービスの充実も図るようにしてきました。全国に5支社40営業所を置き、お客様との接点を増やしサービス強化に努めていますが、その中で近年はひしひしと、各地の農業の担い手が減っていることを感じます。

大西：この10年間で、農業生産者数は約196万戸から133万戸に減ったといいます。一戸当たりの管理面積は全国的に増えていて、特に北海道では100ha以上の生産者が増えました。

杉野：作業を省力化して人手不足を補うため、農機に期待がかかっているのがわかります。

村上：北海道は本当に人口減少が厳しい地域が多く、だからこそ大規模営農を支える作業の省力化における最先端の研究拠点となっています。農研機構の拠点が十勝の

芽室にあるのも、道東各地の有力な生産地に近いからです。そこで、現場つまり生産者の皆さんと連携し、一体となった研究を進めています。

杉野：省力化を大きく分けると、一つは1回当たりの作業量の向上、もう一つは人の手で行っていたような精密な作業を農機での作業に変換していくことがありますね。

伊藤：後者は農機の活用ともいえ、導入コストがかかる農機には必要なことだと思います。例えばコンバインは、米・麦の収穫だけでは1週間も稼働しません。あるお客様から、麦収穫後の整備の際に「大豆の収穫にも使えないか」と要望をいただいたことがありました。そこであれこれ工夫して、大豆の収穫作業に対応すると、今度は「トウモロコシの実だけとれないか」と。

杉野：複合機的なニーズが出てきます。

伊藤：お客様のニーズを実現するまでに苦労はありますが、クリアすれば私たちは整備でお客様の機械に触れられる機会が年4回に増えます。技術員にはもちろん作業の



マニュアルはあります。しかし、お客様から気軽に要望をお寄せいただくこと、そしてそれを時にメーカーと調整しながら粘り強く実現していくことが、「技術員の資質」であると思います。

村上：メーカーと連携し、現場から上がった要望を製品に反映していただけるのはありがたいことです。エム・エス・ケーさんが素晴らしいと思うのは、ドイツのホルマー社のビートハーベスターの例が代表的ですが、海外メーカーも巻き込んで動いているところです。

杉野：当初はホルマー社に日本独自の必要



※2005年・2015年の販売農家数(2015年農林業センサス結果より)

性を理解してもらえなかったのですが、ニーズは必ず出てくるからと粘り強く説得して実現しました。生産地に近い私たちが、パートナーメーカーに説明することは大切な仕事だと思っています。

大西：また、現在はお客様の情報スピードも格段に違い、海外から情報を収集している方もいます。昔は私たちが情報提供する側でしたが、今では「この製品は取り寄せられないのか」「海外のこの方法はできないのか」とお客様から問い合わせがあって調べることもあり、情報の流れはすっかり変わりました。私たちもついていけるように駆け足です。

村上：イノベーションは常に生産現場で起こります。研究も、これまでは中央で行い、技術を実証してから各地へという流れがありましたが、今やそれでは生産者の方々のスピードに追いつけません。今ではなるべくニーズが上がった生産現場で連携して実証を進め、生産者の方々へのフィードバックを可能な限り早くできるようにしています。



熟練者

と非熟練者がつながってはじめて農機は活用できる

村上：誰もが急な進歩を求めるわけではなく、失敗を恐れて新技術や機器の導入に踏み切れない方のほうが多いのです。そういう方々も、参考にできる成功例が積み重なれば導入を検討しやすくなります。

大西：新しい機器・機械を導入された方が、使用の様子や感想を Web 動画で公開されたり、同じ機械のユーザーと“友の会”を作って地域をまたいで交流したりということがありますね。

村上：そういった発信力のある方がいる地域だと、実際の圃場を見ることができ、よりリアリティを持つことができますね。この人が導入しているならうちもやってみよう、という動機になることも十分にありえます。また、機器が開発されていても、土地や作物、その年の気候などの条件で有効に使えるかどうかが変わり、地域での経験の蓄積はとても重要です。例えば今、センシング技術による可変施肥などの機器の普及が進んでいます。センサーは確かに生育の違いを感知する部分では農業の経験

不足を補います。しかし収量や品質に効果を出すためには、生育が遅い部分に対しどの程度追肥するかという設定が肝になります。

杉野：ただ機械をつないでいるだけでは効果は出にくいですね。

村上：「この地域ならばこういう設定で使う」という目安を出すためには、土地や気候に詳しい熟練者が利用したデータが必要になるでしょう。さらに公的機関にも入ってもらって、センシング技術も含めた作物栽培指針を地域で組織的に作っていかねばいけません。

杉野：その土地の気候や土壌のデータも必要になってきますよね。私たちのお客様の中には、海外の企業に土壌診断を依頼している先進的な方もいます。技術導入に、農業分野のコンサルタントの協力が不可欠になってくるのでしょうか。

村上：欧米では企業がビジネスとしてコンサルタント業をしています。しかし日本では農業改良普及センターや JA の営農セン

ターが技術や集まった情報を生産者に還元する流れがあります。ただでさえ生産には安くないコストがかかりますから、今の投入資材の中でどう収量を上げるかという方向になってきますね。





杉野：収量を追いすぎると、農産物はコモディティ化^{*}していかないでしょうか。日本農業の将来を考えると、スペシャリティとしての競争力のある農産物が必要になるのでは。

村上：もちろんそれも大切です。しかし、国内外で最も大きいマーケットがどこにあるかと考えると、いかに低コストで多くの収量を得るかということが重要になります。スペシャリティ、つまりは無農薬・減農薬栽培といった、高い技術が必要とされる農産物が必要とされる場面は限られるのです。ま

た、生産者の方も加工業者や外食チェーンなどとの契約を大切にしています。昨年の台風のような大きなトラブルは別ですが、多少の気候の変動があろうとも契約で決められた量の農産物を作り、それを毎年買ってもらえる、その信頼関係が生産地にとっては大切なのです。

杉野：供給責任ということですね。確かにお客様は皆、価格を可能な限り堅持し、安定した供給を行う責任を重視されています。その安定性を保つお手伝いをするところに私たちの仕事はあるのだと思います。

※コモディティ化…付加価値の高い製品が、市場でほかの商品と競争をする中で、その付加価値を失い価格や量のみで消費者から判断されるようになること。



作業を減らすだけでは人も減る。費用対効果向上に地域全体で取り組みを

村上：今後の農業を考える時には、生産者のライフサイクルというのも考えなければいけないのではと思います。若いうちは、規模拡大のための資金づくりが優先で、農業機械への大きな投資はできません。経営が安定し、40～50代に絶頂期を迎えた時には、作業をできるだけ楽にしたいと大型農業機械やICT機器の導入を考えるでしょう。その後、メインの耕地を後継者に引き継いでから、一人でできる規模で農業を続けたい方々もいます。そういうリタイヤ前の

方々が続けていくための農機の需要が、今後は台数的には増えてくるのではないのでしょうか。

伊藤：弊社にも40年前に購入された農業機械の整備や部品取り寄せの引き合いがしばしばあります。20年前から、機械が大きな故障を起こす前に調整や部品交換を行う、「提案型の整備」を技術員に徹底させてきました。新しい物をすすめるだけでなく、使い慣れた機械をより長く使い続けられるようなフォローも大切だと感じます。



村上：大型農業機械や最新の技術は、確かに作業を軽減し、人手不足を補うでしょう。しかし省力化するだけでは、生産地から人がいなくなるという根本的な問題はなくなりません。農機を使って一人で広大な農地を耕せたとしても、地域がなくなつては本末転倒です。どうやって地域に人を呼び、定着させるかをセットで考えなければいけません。

大西：お客様のニーズに応えることが農業への貢献と思ってきましたが、その先を見据えた提案ができなくてはいけませんね。

村上：地域を維持しながら農業機械を活用する方法として、エム・エス・ケーさんの協力もあり、JAや関係機関と共にドイツの農業を視察してきます。ドイツでは、大型農機の導入コストに見合う稼働率を確保するために、地域をあげて取り組みを行っています。例えば、ICTの活用とともに地域の農地を集約化・区画整理したり、機械利用組合を立ち上げて共同利用したりと、効率的な運用ができる環境を整えています。日本でまったく同じことをするのは難しくても、「農機は地域で使うもの」という考え方に变えていくことは重要だと思います。

杉野：共同利用以外にも、先ほどの複合機能的な活用法など、個々で効率的な運用をされている生産者の方々のノウハウが役立つことは多いと思います。そういった先進的な生産者の方々は、聞けば結構オープンに教えてください。そういった経営技術に関わる情報を橋渡ししていくことも、私たちができることなのかなと思います。



農機の情報交換をキーワードに地域に集いの場を復活させる

村上：例えば農機の簡単な修理をしたいという時に、昔は何でも頼める町工場がありました。そういう場所には人が集まるので、自然と情報交換や交流が行われていました。しかし人が減ると、地域にはそういう場所もなくなっていきます。今は農機に関わる企業の皆さんが役割を担っていると思いますが。

杉野：私たちの営業所を、もっと地域のサロンのような場所として使っていただけるといいですね。

伊藤：お客様に求められたことだけでなく、役立つ情報を発信できるような場所であれば、地域の方々に立ち寄っていただける。

大西：営業所は事業の前線基地と思ってきましたが、これからは地域の方に使ってもらえる場所にならなければいけませんね。

村上：北海道の現状を見てみると、やはりきちんと特産品がありブランド化できている地域や、採算が取れる営農を確立し指導できている地域ほど、後継者も見つかりやすいです。

杉野：人のつながりをつくるのが地域の活気を取り戻し、その地域が未来へ続いていくことを助けるのです。弊社は経営理念のトップに「日本の農業の発展に貢献する」ということを掲げています。私たちにも、その地域づくりに貢献できることもあるのだと感じました。村上先生、今日はお忙しいところを芽室からお越しいただき、貴重なお話をありがとうございました。今日の対談で得られたヒントや課題、環境認識などを生かして、この重要なテーマにしっかりと取り組んで行きたいと思っています。



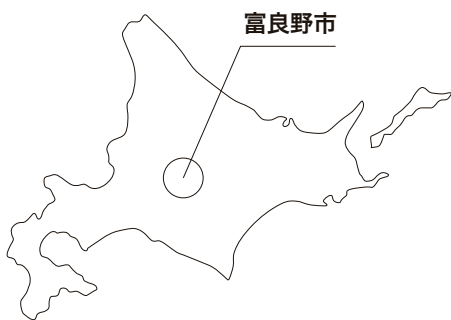
※2017年9月8日に札幌市内で行った座談会を収録・編集しました。



営業所だより

道央支社

富良野営業所



富良野市

美しい四季を楽しめる
営業所です！

富良野営業所は、TVドラマ「北の国から」やラベンダー畑で有名な富良野市にあり、営業3名、サービス(技術)4名、事務1名の体制で、営業所を中心に南北は約100km、東西には約60kmの範囲をカバーしています。エリア内の畑作農家や酪農家などを中心に約300件のお客様を担当しております。

畑作では小麦・ビート・豆・馬鈴薯の主要品目に加え、玉ねぎ・ビール麦・人参等も作付けされており、とりわけビール麦はメーカーとの契約栽培によって生産され、毎年秋には富良野の名を冠した期間限定商品が店頭並び、こちらも人気を博しています。

牧草や小麦、飼料用トウモロコシの収穫が行われる6月～10月が繁忙期となり、雪に閉ざされる冬季は、来シーズンに向けた農機の販売やメンテナンスがメインの業務となります。

富良野は大雪山系をはじめとする山々に囲まれた盆地のため、冬と夏の寒暖差が激しい土地柄ですが、それゆえ四季の変化がはっきりしており、美しい風景を生み出しています。夏はラベンダー、冬はスキーと豊かな自然に恵まれた当地へぜひ、遊びにいらしてください。



上段、左から	佐藤 竜也	宮崎 光広	池田亜希子	武内 健治
下段、左から	湯田 猛	桑原 侑平	矢部 憲貴	中元 良平



みんなの

ご当地紹介

— 富良野編 —

おすすめ店紹介

ふらのの台所 なんまら

JR富良野駅の近くにある東南アジア料理店で、地元では珍しいエスニック料理を扱っています。ランチ時に注文の多い「なんまら風スープカレー」は、炭火焼チキンの他4品あり、辛さは1～10まで選べるメニューとなっています。スープカレー以外は東南アジア各国のライスやおつまみ等があり、昼夜問わずおいしい料理がいただけるお店となっています。お店の名前どおり「なんまら」(＝北海道弁で「とても」)おいしいですよ。

住所／北海道富良野市本町2-5 (JR富良野駅から徒歩5分)

電話／0167-23-4860 営業時間／11:30～14:00、17:00～00:00 年中無休／座席120席



おすすめ観光スポット

フラノマルシェ

地元の農産物や加工品など、富良野ならではのおみやげ品やグルメがいっぱいの商業施設です。農産物直売所やカフェ、物産センターなどがあって、季節の新鮮野菜や果物、パンやスイーツなどが並んでいます。あちこちのお店をのぞきながら、買物や食べ歩きが楽しいですよ。夏はアジア系、冬は欧米系と海外からの観光客も多く集まる人気スポットです。

住所／北海道富良野市幸町13-1 (JR富良野駅から徒歩7分)

電話／0167-22-1001 営業時間／10:00～19:00



営業所のホープ社員

桑原 侑平さん

入社2年目の桑原です。道北の中頓別町出身で札幌学院大学を卒業し、入社後は営業の先輩やサービス担当に同行して1年間学びました。現在は上富良野や美瑛など、旭川近辺のエリアを担当しています。配属後は、とにかく仕事を覚えて、担当エリアになじみたいと頑張っています。今はお客様から学ぶことが多く、わからないことはお客様に聞いたりすることもあります。最近嬉しかったのは、赴任後初めて、お客様から仕事の案件をいただいたことです。

プライベートでは、富良野周辺の観光地はひととおりまわりました！あとは、札幌や旭川に遊びや買物に行くことが多いですね。また、同期入社の社員とはよく連絡をとりあっていますよ。仲はいいですが、営業成績では負けたくない思いが強いんです。そんな私ですが、皆様どうぞよろしくお願いします！





2017年度

13人の新入社員が入社しました!



ナガサワ ケイ
長澤 慧
北海道出身



趣味・特技

映画鑑賞

研修を終えて

入社してから勉強の毎日ですが一日も早く先輩方に追いつけるよう頑張っていきたいと思っています。

カネミツ マサト
金光 将人
新潟県出身



趣味・特技

釣り、山歩き

研修を終えて

知識に貪欲である必要性を現場で体感しました。これを忘れず邁進できるよう一層努力していきます。



アズマ リョウ
東 稜
北海道出身



趣味・特技

食べ飲み歩き

研修を終えて

いつも笑顔を保ち、日々努力。たくさんのお客様のお役に立てるよう一生懸命頑張ります。

クロダ ヒカル
黒田 光
北海道出身



趣味・特技

スノーボード、レザークラフトなど

研修を終えて

十勝研修では現場を感じとても良い経験をしました。諸先輩方から教えていただいたことを胸に頑張りたいと思います。

ホリカワ タクマ
堀川 拓真
北海道出身



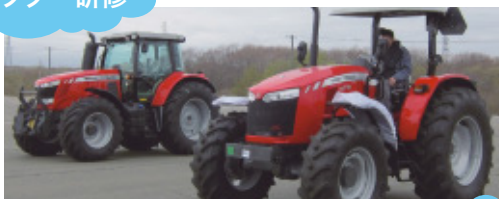
趣味・特技

サッカー、ゲーム、カラオケ

研修を終えて

現場に行き、今まで知らなかったことを色々学べました。配属場所でもこの知識は生かしていきたいと思っています。

トラクター研修



土の館研修



フクダ ユウタ
福田 勇太
熊本県出身



趣味・特技

野球

研修を終えて

まだまだ覚えることが沢山ありますが、一生懸命がんばります。

トガワトシキ
戸川 淑貴
熊本県出身



趣味・特技

野球観戦

研修を終えて

現場で研修させていただき、技術と知識を身につけ早く会社に貢献できるよう頑張ります。

ヨシダ アヤト
吉田 彩人
青森県出身



趣味・特技

車いじり、ドライブ

研修を終えて

農業のことはゼロからのスタートですので色々勉強がんばります。

マツザキ ヒロキ
松寄 大樹
北海道出身



趣味・特技

川釣りが好きです

研修を終えて

毎日新しいことばかりで楽しく仕事をさせてもらい、これからも頑張りますのでよろしくお願いします。

マツウラ ユウ
松浦 優
北海道出身



趣味・特技

模型製作と自分の車をきれいにすること。

研修を終えて

知らない事が沢山あり勉強の日々ですが「わからない」と言える今のうちに様々な事を吸収していきます。



ノヅキ タツペイ
野月 達平
北海道出身



趣味・特技

バドミントン

研修を終えて

現場を体験し厳しさの一部を垣間見ました。まだまだ知識・技術不足ですが早く一人前になれる様頑張ります。

コヤマ ショウタ
小山 翔太
北海道出身



趣味・特技

ソフトテニス、スノーボード、体を動かすこと

研修を終えて

研修を重ね先輩方の技術を自分の物に出来るよう日々謙虚に学ぶ姿勢で失敗を恐れず精進して行こうと思います。

アンドウ タカシ
安藤 隆史
北海道出身



趣味・特技

サイクリング

研修を終えて

先輩方の作業をよく見て、早く仕事を覚えられるようにがんばる。また、失敗を恐れず様々なことに挑戦する。





シンプル・高品質・すぐれたコストパフォーマンス！ MF Global Series (グローバル シリーズ) トラクター新登場！！

常に革新的なアイデアを具現化し続けるマッセイ・ファーガソンから新たにMF4700・MF5700シリーズ、Global Seriesが発売されました。

定格95馬力のMF4709、定格100馬力のMF5710トラクターはどちらもキャビン仕様、安全フレーム仕様をラインアップ。作業機や作業環境に合わせた選択が可能です。

シンプルでありながらトラクターとしての快適さを失わず、更に最新の排気ガス基準Tier4ファイナルに適合しています。

マッセイ・ファーガソンの新たな挑戦、

Global Seriesトラクターの詳細につきましては弊社販売員までお問い合わせ下さい。



画像は海外仕様であり、日本仕様とは異なる場合がございます。



JAMESWAY スラリータンカー“MAXX-TRAC 10200”

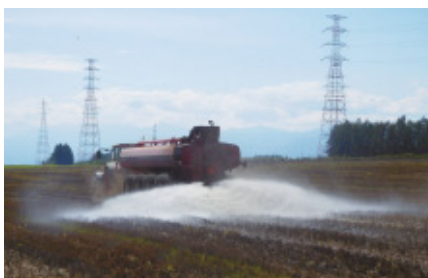
北海道河東郡鹿追町 若原政雄さん



十勝で農業を
もっと発展させたい。
農業は楽しいものだから。



世界最大級、日本最大のスラリータンカー“MAXX-TRAC”が北海道十勝管内で今年から大活躍しています。お客様の若原政雄さんは北海道河東郡鹿追町にて乳牛総頭数80頭、牧草50ha、小麦30haで営農され、1993年MF3085をきっかけにクラスコンバインレキシオン510、クーンスリンガースプレッダーPT8150、FENDT936VARIO T4といった大型農業機械を多数導入頂いています。年に数回、海外の展示会や農場に足を運ばれ実機を目で見て触れながら機械選定をされています。今回のスラリータンカーは、カナダのモントリオール州にある糞尿処理機械を主体とするJamesway社で製造されました。当社はこれまで多くのスラリーポンプやタンカーの販売実績があり、何と今年は「世界のトップ10ディーラー」に選出され、今回のタンカーもこの功績のひとつとなっています！



今回のMAXX-TRAC 10200はタンク容量38,600L、8輪の巨大なタンカーですが、若原さんは作業速度15km/h、わずか3-4分でこの大容量全て散布し切ってしまうそうです。なぜこのモデルを購入されたかというアメリカで実物を前に、そのステアリング性能、散布能力、作業速度、850/50×30.5の大径タイヤに「うん、これだ!」と感銘を受けられたそうです。「MSKのサービスマンの腕」に好評を頂き「MSKからであれば安心して購入できる」と温かいお言葉を頂きました。「規模が拡大する農業において、積極的な“投資”は必須である。世界に負けない日本の農業を目指し世界と戦うトマホークが必要。今回のタンカーのような武器を持って言葉の通じるあたかも外国の圃場のような十勝で農業をもっと発展させたい。農業は楽しいものだから」

広い視野と就農者の育成にも励まれながら、SNSでトレンドを掴む。現地に出向くと、多岐にわたる若原さんの活躍と次なる“トマホーク”が何になるか、楽しみでなりません！



GLOBAL TOPICS

海外事情から知る
ニッポン農業農業輸出額世界 2 位のオランダに続け！
生産性アップに貢献するテクノロジー活用

オランダの国土の面積は日本の約1/9で、九州ぐらいの広さです。しかしながら農業輸出額はアメリカに次いで世界2位、日本の10倍以上を誇っています。

これを可能にしているのが、高い農業生産技術。特にトマトなどの生産性は世界最高レベルで、例えば、1000㎡あたりの平均的なトマト収穫量は、日本の8倍にもなります。キュウリは11倍、パプリカは6倍です。このため農業の競争力強化を目指す多くの国や企業が、オランダに注目しています。

オランダではITファーム化が進んでおり、農業経営体の8割が、自動制御システム搭載のコンピュータで農作物の管理を行っているといわれています。トマトやキュウリなどの施設園芸では、温度や湿度、光量、光合成に必要な二酸化炭素濃度を検知し、コンピュータが最適な環境を自動的に作り出す環境制御システムを活用。もちろん、肥料や水も最適な量が自動的に運ばれるようになっています。これらが日本を上回る平均収穫量の秘密なのです。

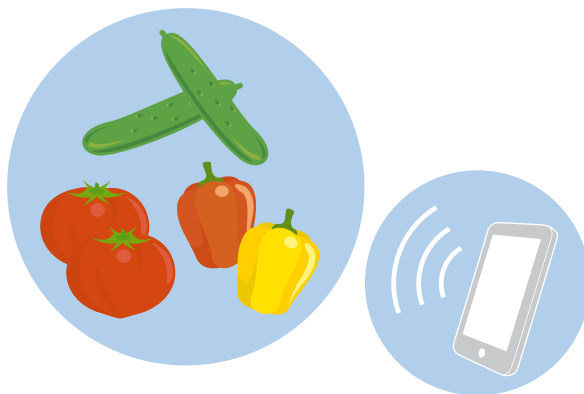
オランダの農業が飛躍するきっかけとなったのは、1980年代、スペインやポルトガルのEC加盟によって、広大な農地で生産された安価な野菜が国内に流通するようになったことでした。家族経営による小規模農家が多かったオランダの農業生産は大打撃を受け、生き残りをかけた変革が始まったのです。

オランダの農地は狭く、気候・土壌条件にもあまり恵まれていません。この問題を解決したのが、ITを活用して作物の生育環境を徹底的に管理する施設園芸でした。

近年のオランダの農産物輸出額の内訳を上位から見てみると、花卉、食肉、乳製品・鶏卵、野菜など。主に収益性の高い農産物やその加工品を生産し、輸出していることがわかります。施設園芸作物の栽培面積では、トマト・キュウリ・パプリカの3品目が約8割を占めています。高い収益が期待できる作物を集中して生産することで、生産者の技術が向上し、農業関連企業による技術開発も効率化、さらに技術力が高まる…という良い循環が作られているのです。

日本国内の農業市場は少子高齢化の影響で、縮小傾向にあります。そのため、国は海外への農産物輸出を増やすことで農業振興を図ろうとしており、平成31年に輸出額1兆円まで増やすことを目標に掲げています。日本の農林水産物の輸出は、2013年～15年まで3年連続で過去最高を更新、2016年には7501億円となっています。

日本の農業輸出額の世界ランキングは44位（2016年現在）。農業のIT化によって労働力不足や生産コスト高の問題を解消し、日本ならではの「スマートアグリ」を築いて世界と戦える「強い農業」となることが期待されています。



！ 展示会情報

第1回いわてスマート農業祭

3日間で3万5000名超

岩手県全国農機実演展示会

MFMも
出展！

岩手県農業機械協会（松田博之会長）主催による「第72回岩手県全国農業機械実演展示会」が8月24～26日の3日間、滝沢市の岩手県産業文化センター・アピオで開催されました。初の試みとして県主催の「第1回スマート農業祭」が25日午後より開催されたこともあり、3日間で3万5000名を超える来場者数を記録しました。



Japanese foods

ニッポンの食材

ニッポンの食材

かぼちゃ



かぼちゃのルーツと名前の由来

かぼちゃの原産地は、メキシコ南部から中央アメリカといわれています。コロンブスにより持ち帰られたかぼちゃがヨーロッパから世界中へと広められ、カンボジアで栽培されていたものがポルトガル人によって日本へ。渡来の説には、1541年ポルトガル船が豊後(現大分県)に漂着して伝わった説と1580年前後にポルトガル人によって長崎に伝えられた2説があり、渡来元のカンボジアからかぼちゃと呼ばれるようになりました。西日本では、ポルトガル語のかぼちゃAbóbora(アボーボラ)から「ぼうぶら」と呼ぶ地域もあります。

(参考資料)『まるごとかぼちゃ』絵本塾出版 2014年

秘めたる力、かぼちゃの栄養価!

かぼちゃの黄色い色の元は、植物に多く含まれる色素のひとつβ-カロテン。これが体内で目や肌の健康を保つ働きのあるビタミンAに代わります。また、β-カロテンそのものには抗酸化作用・免疫力を高める働きもあります。さらに、ビタミンCや食物繊維も豊富で緑黄色野菜の王様といわれています。

夏野菜のかぼちゃ、なぜ冬至に食べる?

かぼちゃを覆う硬い皮が、中身を乾燥から守り長期間の保存に耐えることができます。現在のように一年中新鮮な野菜が出回らない昔、冬まで保存できたかぼちゃを貴重なビタミン源として食したのです。

日本かぼちゃ、西洋かぼちゃの違い

ポルトガル人によって伝えられたかぼちゃが日本かぼちゃとなり郷土料理の素材としてなじみ深いものになりましたが、西洋かぼちゃは、江戸末期にアメリカによって南アメリカの高原地帯が原産といわれる新しいかぼちゃが伝わり、北海道など寒冷な地域で広く栽培されています。

食味は、ややねっとりとした日本かぼちゃに対し、ホクホクして甘みが強いのが西洋かぼちゃの特徴です。その違いは身に含まれるでんぷん量で、西洋かぼちゃの方が多く含まれています。日本かぼちゃは、郷土料理や日本の伝統的な料理に適しています。

ユニークなかぼちゃ、巨大なかぼちゃ

かぼちゃはウリ科。かぼちゃのひとつにペポかぼちゃがあります。「ペポ」とはラテン語でウリの仲間をさし、ズッキーニや金糸瓜などがあります。金糸瓜はゆでると身が麺のようにほぐれることからそうめんかぼちゃとも呼ばれています。

重さが最大で800kg程にもなるかぼちゃ「アトランティックジャイアント」。原産地はアメリカで食用には向かず家畜の餌として栽培されています。重さを競うコンテストが国内やアメリカで開催されています。

団らんレシピ

● 手軽で簡単、洋風にアレンジ

フルーツグラノーラとかぼちゃのサラダ

かぼちゃだけでは味わえない食感の良さを楽しめ、ビタミンやミネラルをバランス良くとれます。しかもポリ袋を使って洗いを減らし後片付けも楽な時短メニュー!

材料

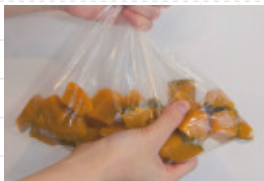
(3人分)

- ・かぼちゃ 1/4カット
- ・バター 10グラム
- ・フルーツグラノーラ
- ・しょうゆ 小さじ1
- 適量(お好みに合わせて)
- ・塩・こしょう 適量

①種とわたをとったかぼちゃを茹でやすい大きさに切り、水から茹でます。

※かぼちゃの皮は好みに合わせて剥いてください。

②茹であがったらお湯を捨て、さらに弱火にかけて粉ふきにします。



③冷めたかぼちゃをポリ袋に入れて手でみながら粗めにつぶします。さらにバター・塩・こしょうで味を調えます。



④お好みの量のフルーツグラノーラをまぜます。



食感が楽しく
栄養もたっぷり



▲ 初日は雨に見舞われたものの、2日目3日目は天候が回復!



る〜ぷ^{Light}

#01

<http://www.mskfm.co.jp>
多目的広場 ▶ 広報誌「る〜ぷ」





MSK FARM MACHINERY CORPORATION

エム・エス・ケー農業機械株式会社